

Fさんが以前、冬に富士見山で見たと言う「霜の花」を見に行こうと計画。寒い朝、シモバシラという植物の茎にできるという。Fさんの家の庭にもあるのだとか。

天気は快晴。高速窓越しの富士山もくっきり美しい。さすが！晴れ女3人。(※翌日は雪だった！)  
少々迷って甲斐やすらぎの宮、堂平登山口に着く。かなりの山間なのに民家、学校、お寺あり。

10年くらい前に登ったことがあるFさんの案内ですぐ堂平登山口から登攀を始める。

ヒノ木や杉の植林がされた登山道は最初から急登だ。小一時間ほどで造林小屋。ここからはブナの大木が何本も現れる。コブコブの大木。朽ち果て根だけが残っている物。折れて倒れている木も何本かあり去年の台風の通り道だったのかな？とも思う。白いテープ状の物があちこちの植林に蒔かれているが、蒔かれてからかなりの年月が過ぎているようで間引き予定が放置されている。山梨百名山になっている割にはあまり整備されていない様子。山王分岐～御殿山分岐までのトラバースは路肩が崩折れそうな細い尾根を慎重に登る。山側に体重をかけ谷川に滑り落ちないように緊張しながらの急登がひたすら続く。

堂平分岐～稜線に出ると緩やかな登りとなり程なく真新しいベンチが2つ現れた。目の前に富士山のビューポイント。ここが展望台かと一瞬間違えそうになる。展望台はもう少し先だった。

赤い鳥居がある奥の院の展望台には先着1名70代？の男性。本日初めての出会い。静岡の方で平須登山口からとの事。

「霜の花ありました？」と聞いてみたが「崩落箇所もあり、登るのに必死で気が付かなかった」との返事。

富士山の絶景は勿論の事、反対側に南アルプスの銀嶺。北岳、間ノ岳、農鳥から塩見岳、赤石まで見事に真っ白に輝いていた。登った甲斐があったね！

三角点まで行っても唐松林で景観が良くないとヤマレコが多く、ここで富士山を見ながらゆっくり昼食とすることにした。

下山開始後もう一人、平須登山口からの男性と会う。登山道が荒れていて崩落箇所が3か所あり、来るたびにひどくなっていると言っていた。

堂平分岐～一気に下る。尾根から尾根のトラバースは確かに荒れており足元が悪い。慎重に下りる。もう終わりかと思っていたら最後に大きな崩落箇所があり登山道が崩れて無くなっていた。鎖とあまり頼りにならないロープがありやっこ冷や冷やもので通過。急峻で気が抜けない下山が続き、緊張で踏ん張るので膝が痛くなってきた。登山道には落下した杉の枝が散乱しており終始歩きにくかった。

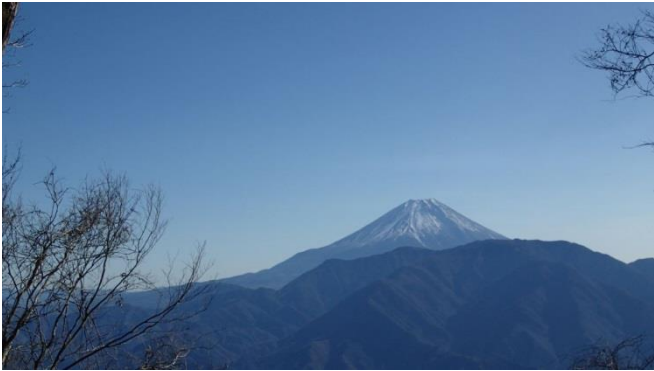
期待した霜の花はとうとう見ることはできなかった。林の日陰にかすかに雪が残っていたが、山全体が晩秋の様相であり、もっと寒い早朝でないと無理なのかな？今年は暖冬かも・・・？

#### 【コースタイム】

茅野 6:00 → 8:00 甲斐やすらぎの宮 堂平登山口

堂平登山口 8:20～造林小屋～御殿山分岐～11:00 富士見山展望台 大休憩

下山開始 12:00～13:50 平須登山口～14:00 甲斐やすらぎの宮 堂平登山口



展望台からの富士山



展望台にて



南アルプスの山々



奥の院の赤い鳥居

### ※参考【霜の花】

- ・氷の花（霜の花）はシモバシラという植物の茎にできる。
- ・凍るほど気温が低く土が凍らない程度の気温、雪が降っていないといった条件下の12～2月に見られる。
- ・根が吸い上げた水分が茎から蒸散して、その水分が寒さで凍り、長い氷の花（霜の花）を1日で形作る。

